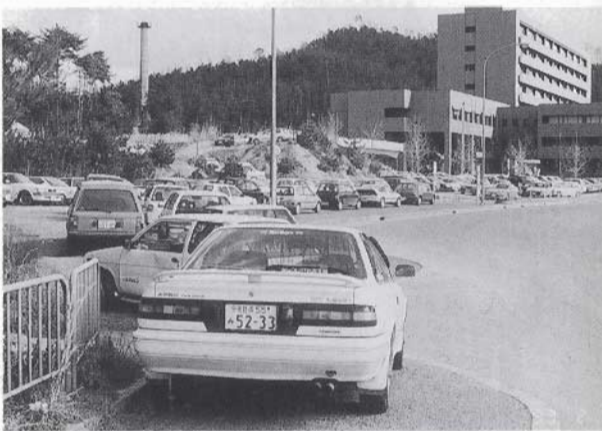


他大学のキャンパス内交通規制等

	新潟大学 (五十嵐地区)	金沢大学 (角間地区)	岐阜大学 (柳戸地区)	宮崎大学
自動車通勤・ 通学の入構規制	実施 (距離・学年)	実施 (距離)	実施(免許取得 後1年・距離)	実施 (距離)
乗り入れ禁止 ゾーンの有無	無	有 (アカデミックゾーン)	有	有
キャンパス内の 速度制限の有無	有 (20km/h)	無	有 (外周道路30km/h)	有 (20km/h)
監視員配置の 有無	有	有	有	無
罰則の有無	無	車両固定 許可取消	許可取消	無

新キャンパスへの統合移転が完了すると、一〇〇ヘクタールに満たない狭い敷地内に、数千台の四輪車、二輪車が、それも必ずしもマナーの良くない運転者の車が、あふれることになる。これは由々しき事態である。快適な教育研究環境を維持するためにも、まずアカデミックゾーンへの車の乗り入れ禁止はぜひ実現したい。そのためには、外周道



大会館前停留所附近

路から駐車場へストリートに進入できる道路の整備が必要だろう。その他、交通標識の整備、規制の柵、減速のための障害物、カーブ

ミラー等の設置など、ハード面での整備が望まれる。  
構内での交通整理、駐車場の維持管理などのためには人員が必要である。そのため経費を自己負担とし、便利さの享受には代償が必要なこと、学内交通問題について意識を深めることも必要だろう。  
ハード面からだけでなく、適正な規則の制定、交通安全教育といったソフト面での整備も望まれる。

構内を駐車場のアスファルトで覆いつくし、緑に恵まれたせつかくのすばらしい環境を台無しにしたくない。駐車場の整備については十分な配慮を要する。  
落ち着いた、学問の府にふさわしいキャンパスを作り上げたいと切に願う。

## 富士山への旅

理学部応用解析学講座

方 青

日本に来たことがある人に対してはもちろん、日本に来たことのない人に対しても、日本の象徴は何ですかという質問をすると、恐らく八割の人の答えは富士山でしょう。残りの二割の答えは何だろう。桜、歌舞伎、大相撲、あるいは銀座の世界一高い地価、いずれ

中国河南省鄭州出身。黄河の中下流にある都市、山も海もなく、地平線までまっすぐの平原しか見えないところで生まれ、日本に来てやっと海を見る。一九九二年三月本学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期修了、同年四月助手。

にせよ本文とは関係がない。

せっかく日本に来ているのだから、どの外国人でもチャンスがあれば一度は富士山に登ってみたいと思うにちがいない。私もいつか富士山へ旅行に行く決めていた。

とうとうその旅に足を運んだのは日本に来て四年初めの頃、ちょうど日本列島に美しい桜が満開の時、北行きの列車に乗って行った。行く前にいろいろ調べたけれども、地図に載っている路線がけっこう多くて迷うので、まずあえて東京に行くことにした。富士山に近いところの人が詳しいだろうと思ったのだ。東京でたずねた人の言うことに従って、御殿場へ行く列車に乗りかえた。

もうすぐ御殿場につく。朝日が徐々に大地から出て、まだ半分しか出ていないが、大きく夕焼けみたいに火をつけるほど赤い。列車は山の中を走っているけれども、全然霧がなくて晴れわたった空であった。遠い山影のむこうからあの白い帽子を載せた富士山の景色がはつきり目に入って来た。蛇行する列車に対して隠れたり現われたりしているが、心配していた気持ちが一遍にふきとんで、うれしくなってきた。ゆっくり富士山の顔を見て他人に誇りたいような気分になっていた。富士山のまわりは雲が多くて普通は見えないと聞いていたが、そうでもない私は思った。御殿場を出てから想像しない驚きがあった。ここは富士山のすぐそばなのに、山の風景を

誇る宣伝、あるいは山へ行くバスの標識などがまったく見あたらない。これは名山に似合わないじゃないかと思った。何回も人に尋ねたが、こっちは外国人だと思われなかったのか、ほとんどの人が日本の遠いところから富士山を見に来た変な人がいるという顔をしていた。そのうち、いつのまにかまっ青な空に雲が飛んで来ていた。早く山へ出発しないといけないと思いつつ山に向かう道に沿って走っていった。走り疲れて三十分間後、「目の前の山は千キロの距離」で、歩いたら一日以上かかってしまうと思つた。やはりバスに乗らないといけないと思つた。この時、あつという間に空が真つ暗になって、富士山の影は見えなくなつた。その後、空が一瞬晴れたように思つたが、一度も富士山の姿を見ることはできなかつた。

当地の人の話によると、二つの考え方があ

御殿場ですこし富士山が見える時



御殿場で全然富士山が見えない時

かないと上まで登ることができないということである。もう一つは御殿場が富士山に近すぎるといふことである。このことは近すぎて、富士山がはつきり見えないという意味である。もうすこし遠いところから富士山を見るときれいに見えるそうである。

いずれにせよ、結局私は富士山に登ることができなかつた。富士山は日本の象徴だから、登らなかつたのは、ある意味で私にとつて一番いい結果であつたかもしれないと、最後に思った。面白かつたことは、この話を後で日本の友達に話したら、皆笑つたことである。というのは四月にはまだ富士山へ登ることはできないというのである。なるほど！と思つた。